等　高　線

後藤隆徳

愛鷹山は誰のもの

三島労山が１１月１４日、５年前に続き愛鷹山でブナの植樹を計画しました。植樹されるブナは前回同様、本来愛鷹山で生まれた固有の遺伝子を持つブナでなく、他の地域で生まれ育った遺伝子の異なるブナでした。

三島労山の会員でもある私は、安易なブナ植樹は「自然破壊につながる」と反対の立場を表明し、今回の植樹の「中止」と前回の植樹の「撤去」を要請しました。会が運営委員会などで充分時間をかけ話し合った結論は、ブナ植樹は「保留」、代わりに土壌調査、実生育生試験、観察を実施するでした。

■

愛鷹山はここ２０年位の間、ブナの「枯死（こし）」が目立ち始めました。越前岳山頂は私が登山を始めた３０年前はブナの巨木が生い茂り、むしろ展望の良くない山だったと記憶しています。ただ、枯死は愛鷹山だけの現象でなく丹沢・日光・立山・西日本と広範囲に渡っています。

原因は、排気ガス・工場排煙などの酸性雨・霧の大気汚染説が有力ですが、地球温暖化、ナラタケ菌、乾燥化、台風被害、寿命、登山者自身の山岳過剰利用などの諸説もあります。

いずれにしろ、原因究明は愛鷹山独自で、様々な角度から「環境調査」を実施しなければ明確になりません。酸性雨・霧の大気汚染を始め、気流の解析、降水量、日射量、気温変化、土壌成分。そしてブナの活力度や枯死の分布、種子の生産、発芽と実生、幼樹や後継樹の数など、まずやるべきことは愛鷹山の「現状」を私達がもっと知ることです。実は私達は思っている程、愛鷹山の「自然環境」について、何も知らないのです。

確かに書物や文献では枯死原因は大気汚染説が有力ですが、自分達の手でより具体的に認識し納得しなければ、第三者に説得力ある「環境保全」「自然保護」を語ることは出来ません。例えば、枯死は何故越前岳山頂付近に多いのか。それでは土壌を調査しよう。他の場所に比べたらどうか。だけど何故山頂付近だけなのか。では大気の流れはどうなっているか、などです。

■

問題は５年前と今回、それらの「環境調査」を全くといっていい程、実施しないまま異質のブナを植樹したことと、依然植樹が「保留」になっていることです。

丹沢では「丹沢ブナ党」が中心になって、地道に歳月を重ね「環境調査」を行っています。その結果としてブナ枯死は「おおむね酸性雨・霧」の結論に達し「丹沢自然保護協会」が中心になって、丹沢のブナの実生から育てたブナを植樹しています。丹沢でブナの実生を使用する理由は、一見同じように見えるブナも人間同様、全て遺伝

子が違うからです。専門家も、山麓の雑林の植樹ならいざ知らず、山岳の特別な地域の植樹で、そのような例は聞かないと話します。

現在の日本は貴重な手垢のついていない「原生」の自然が人の手により次々と破壊されています。湖には知らぬ間にブラックバスがはびこり氷河期から生き延びるイワナが死滅しています。渓流には観光用に養殖されたヤマメやホタルが大量に放たれ本来の種が脅かされています。偶然ではありません。全て人の手に依るものです。

自然は脆弱です。「原生」に一度人の手が加ると取り返しのつかない結果を招くことがあります。植樹されたブナが強い「種」の場合何千年、何万年培ってきた愛鷹山の「原生」は淘汰され、もはや「原生林」と呼べない「公園」に化します。「自然保護」とした行為が、実は「自然破壊」につながる、と言わざるを得ません。

■

とりあえず今回の植樹は回避されましたが「保留」では、いつ「再開」とも限りません。また、５年前のブナ撤去に関して、Ｋ自然保護部長は個人的な考えとしながらも、「せっかく植えたものだから心情的に撤去しにくいし、今後も見守りたい」「既に植樹されたものは営林署の管轄なので勝手に撤去出来ない」と明言します。

しかし、それではあまりにも、「無見識」「無責任」「身勝手」ではないでしょうか。その気になりさえすれば営林署などいくらでも説得できるでしょうし、多くの市民の共有の財産である愛鷹山の「私物化」につながるのではないでしょうか。愛鷹山は誰のものです。どうしても三島労山で出来ないのなら、営林署に事情を説明し、第三者の手で撤去するしかないと考えます。

■

今後の進め方を提案します。（１）幸い東部ブロックは愛鷹山を囲むように点在するので、東ブロ会議が中心になり、近隣の自然保護団体・山岳会もまじえ「丹沢ぶな党」のような「環愛鷹山ネットワーク」を設置し環境保全・自然保護を促進させる。時間も労力もかかる事業なので多くの力と英知を結集する。あさぎり山の会には森林インストラクターの下岡さんも在籍するので力を借りる。

（２）「丹沢ブナ党」や「丹沢自然保護協会」など先行する自然保護団体と交流を深め情報を集める。例えば、ブナの実生からの苗作りは非常に時間がかかります。効率的な苗作りの方法があるので、学ぶことも必要です。

（３）年１回「愛鷹山ブナ観察会」を実施する。活力度の観察を兼ねて行いたいので初夏の頃が良い。各会でそれぞれのコースを分担する。多くの市民にも呼びかけ、現状を知ってもらい考えてもらう。

【NO・54　99・12・01】